

KSKP

編集人 特定非営利活動法人ゆめ風基金事務局 (〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-13-43-106)
TEL 06-6324-7702・FAX 06-6321-5662・郵便振替 00980-7-40043
MAIL info@yumekazek.com・WEB https://yumekazek.com/

No.
102

書
左右津安輝子

ゆめ風だより
ごよみ

神尾さんがとつぜん他界された!

不思議な縁を偲びつつ

えにし

理事 まきぐち いちじ
牧口 一二

一九八四年八月二十日第三種郵便物承認毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行

20年以上もお世話になりながら神尾京子さんの年齢を正確には知らないままだった。亡くなられる寸前の《最後のごあいさつ》には「人生60年、長くはないが、短くもない。老後がなかったのは残念だ。国内も海外ももっと旅行がしたかった」とある。一昨年、カタログハウス社を辞されると聞いたとき、「最愛のTさんと思いつ切り世界旅行を愉しんでください」と労^{ねぎら}ったのを思い出す。何かにつけて「ゆめ風」を支えてくださった人なのだ。できるだけ表面に出ない控えめな本当の実力者、縁の下^{きずな}の力持ちが非常に多い「ゆめ風」の中で最初に勢いをつけてくれた人だった。

神尾さんに初めて出会ったのは23年前の初秋ごろか、約束もなく突然に、大阪・天満橋北詰でデザイン科卒4人で営む、ちっぽけなデザインスタジオ「おぼけ箱」に來られて、「こんにちは! カタログハウスの神尾と言います」とニッコリ。名刺には東京・渋谷とある。「カタログハウス社」はもとより『通販生活』誌の存在も知らないボクはキョトン!? 神尾さんは続けて

INDEX

01 神尾さんがとつぜん他界された!
不思議な縁(えにし)を偲びつつ

03 大船渡中学生プロジェクト

04 被災地報告 福島県沖地震

06 リレーエッセイ 災害と障害者 第七十五回

08 応援団からこんにちは! vol.4

09 ゆめ風版BCP

10 カンパをいただいた団体 / 事務局のうごき

11 会計報告

12 各地からの風だより

「ゆめ風基金の呼びかけ文を読みまし
た。で、カタログハウス『通販生活』
の130万人読者に呼びかけてカンパ
活動のお手伝いをしたくて……」と。
ボクはよく呑み込めないままビックリ
仰天（正直いうと失礼にも、詐欺かと
身構えるほどに）。なんと不思議な縁
（えにし）なのだろう。

ゆめ風基金が発足して4年半のこ
ろ、海外の障害者も支援できるように
なって、やっと1億5千万円ほどを
プールできたところだった。神尾さん
は「『通販生活』に振替用紙を綴じこ
んで読者に呼びかけてみます」と言わ
れた。聞けば『通販生活』は年4冊の
季刊誌で、チェルノブイリの母子支援
募金を1990年からやっていて9年
目の現在、総額2億3千万円を届けた
ところとのこと。思わず「ウォー！」
と声を発してしまった。あらためて恐
縮し、「ただただお金は大切に大切に
活用いたします」とタダタドしく告げ
ると、「お金はどんどん活用しないと
意味がありませんよ」とまたまたニッ
コリの神尾さん。その通りです、お金
は川の流れのごとく天下の隅々に巡ら

ないといけません。途中で止めている
のは、誰だ！

出会いは大切な縁の始まり。こうし
た不思議な縁はなお続いた。発足し
た時もそう。本気の本気で呼びかけ人
代表を引き受けてくださった永六輔さ
んが7年目にお連れを亡くされて新た
な運動がしたいと、呼びかけ人代表を
10年で辞されることになった。そのこ
とは尊重しつつも困ってしまう。永さ
んからのバトンタッチは難しそう、だ
が意外に早く見つけた。ゆめ風
活動の言い出しべえ、相棒の、今は亡
き河野秀忠がある日ある時に北海道で
の選挙関係の集いで小室等さんと出会
い意気投合し、以後お付き合いを続け
ていた。善は急げと2人で小室さんの
懷に飛び込んだというわけ。これを
知った永さん、「小室さんが代表を引
き受けてくれるなら権代表として残る
よ」と。（権）には「副」の意もある
という。これも不思議な縁。
まだある。実は小室さん、1992
年と1994年に神尾さんと関係者
数人でベラルーシまで旅をされてい
る。むろんチェルノブイリの母子支

援をより広げる目的の旅。その頃の
神尾さんは30歳そこそこの絶頂期、
「目を見張るほどの活躍ぶりだった」
と小室さん。ゆめ風が神尾さん
と出会う7、9年前のことだ。その
ことをまったく知らずに小室さんに
声をかけて呼びかけ人代表をお願い
していたわけだ。なんとという不思議
な縁だろう！ 人が人を呼ぶという、
そんなつながり仲間の1人ひとり
あつてほしいと心から願う。

神尾さんのちょっとしたエピソード
をご紹介……《最後の「ごあいさつ」の
中の、「わたし個人では絶対に会えな
い著名人に会って話を聞いたり、原稿
をいただいたりといった経験もさせて
もらった」という箇所から頭に浮か
んだシーンなのが、カタログハウス社
の2階から1階ロビーをなんとなく眺
めていたら、横長のソファで野坂昭
如さんと神尾さんが話してる……ボク
のまったく勝手な妄想だけれど、野坂
さんのグチを丁寧（ていねい）に傾きながら聞いて
いる風に想えたんだ。今の地球への予
告のグチだったのか、知りたかった
なあ……

大船渡中学生プロジェクト

事務局員

阿部俊介

2022年11月18日に、岩手県大船渡市にある「大船渡中学校」で『中学生プロジェクト』の授業を私と福島義弘さん（おおさか行動する障害者応援センター）で行いました。大船渡中学校では2018年から防災授業をしており、その防災アドバイザーの岩手大・福留邦洋教授と、共同研究者の早稲田大・古山周太郎准教授から『中学生プロジェクト』をやってほしいと依頼されました。

まず「障がい者の被災経験と日常生活」の授業では、私がなぜ車いす生活になったのかの説明と、東日本震災で被災し、その後、避難先の親戚の叔母の家で14人で半年ほど過酷な避難生活を送ったことなどを話しました。

次の授業では、校内のバリアフリーチェックをしました。校内を生徒と歩きながら、東北と大阪の車いす生活の違い、大阪では障害当事者がいろんな運動をして環境を整えてきたこと、車いすユーザーの多くが自立生活をしたリ、外出していることを話しました。車いすの人と関わるのが初めての生徒も多く、「車いすの人」会話が難しい」と感じていたけれど、実際に会ってみると違っていたということでした。車いすに乗っているのは高齢者だけだと思いきや、生徒が多かったです。

これから若い世代の人達に車いすの人達のことを知ってもらえるように、今後も頑張つて伝えていきたいと思ひます。

（第3種郵便物認可）

インクルーシブ防災授業

インクルーシブ防災

東日本大震災で死者・行方不明者419人を出した岩手県大船渡市の小中学校2校で、防災授業があった。大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた。【奥田伸一】

大船渡中では18年から防災授業を継続。今回、同校の防災アドバイザーを務める岩手大の福留邦洋教授と、共同研究者の早稲田大の古山周太郎准教授

岩手・大船渡 校内の段差確認



車いすの阿部俊介さんからアドバイスを待ながら段差のある場所を移動する大船渡中学校の生徒。岩手県大船渡市で

被災地報告

ゆめ風基金のみなさまへの手紙

伊達市 特定非営利活動法人ボネール
理事長 阿部理平

拝啓

はじめまして。穏やかな年末、お正月でしたが、みなさまにはご健勝のこととお喜び申し上げます。このたびは、私どもの障がい者支援施設「第2ボネール」（仮称）の屋根改修工事にあたって、多額の救済金をいただいたことに対し厚く御礼申し上げます。資材の調達や業者の手配に手間取り、着工が遅れてしまいました。3月1日には完成の運びになりましたことを、まずご報告いたします。

今回、被災の状況や私たちの活動を理解してもらうにあたって、今回の震災（2022・3・16福島県沖地震。以下「県沖地震」）とまもなく12年が来ようとしている東日本大震災（2011・3・11。以下「大震災」）に触れざるを得ません。

私たちの被災した施設（第2ボネール。以下「minosa」）は2019年に一般民家を購入、一部改修を行った物件で、被災当時は、ボネールの作業場として、利用していました。購入当時は、大震災

にあっても、内部に一部ひび割れが発生した程度で、表面上は、何の被害も見られませんでした（だから、購入した訳です）。

しかし、「県沖地震」で、瓦葺の屋根は大きく損傷し、全国からのボランティア団体の支援を受け、ブルーシートでの応急処置を施し、なんとか雨漏りなどを防ぎながら今日まで過ごしてきました。その後、本格的な復旧を考えて、国の「福祉施設の災害復旧事業」に名乗りをあげました。その間、伊達市の災害診断で「準半壊」との評価を受けましたが、災害復旧事業の原則は、あくまで原形復旧であり、崩れた部分の瓦での復旧以外の工法の改良は認めないとの県（窓口）の、かたくなな姿勢は変わりませんでした。しかも、補助率は、2／3で自己負担が残ります。

私たちは、瓦屋根の一部を改修しても、また同程度の地震が来れば、必ず同じように被害を受けるだろう、そうなれば、税金のムダ使いではないかと考え、この際「瓦葺」からフレキシブルな「トタン張り」にするべく、関係機関にその思いを訴え「ゆめ風基金」のみなさんに到達した次第です。

しかし、目を転じて、その後の大震災

かかわる」の3つの柱を大切に、活動しています。

事業内容としては、利用者さんの描いた絵を、ポーチやてぬぐいなどの商品として販売しているほか、他社様の製品や名刺、商業施設のラッピングなどにデザインを提供しています。

多夢多夢舎には、「す・す・つくる」を行うアトリエ棟と、「かかわる」を行うカフェ棟があります。2022年3月の地震では、2つの棟がともに被害を受けました。

アトリエ棟は2021年12月に竣工したばかりの建物でしたが、壁紙などが被害を受けました。竣工10年になるカフェ棟のほうは、特に被害が大きく、食器棚や冷蔵庫が動き、食器・備品がたくさん割れました。漆喰や壁紙にもたくさんのはびが入りました。

地震があった次の日、利用者さんと「怖かったね」という話はしましたが、利用者さんは2011年の震災以降、地震には慣れっこと落ち着いた様子でした。その様子には、むしろ職員の方が助けられました。

実は、多夢多夢舎がアート事業に力を入れ始めたきっかけは、東日本大震災で

福島県沖地震

の復旧事業をみる時、余りにも、福島県民の願い、想いと違和感を覚えるのは、私だけではないと思います。「福島イノベーションコースト構想」と称して、巨額なドローンやロボット基地、大企業の先端技術に特化した投資、開発などまるで「原発導入」時の喧騒を想起させ、さらに地元の理解を得ないままの汚染水（処理水）の海洋投棄の動き、政府の「グリーントランスフォーメーション実行会議（2022・12）」報告での「老朽原発稼働の延長」「原発の新規開発・小型コンパクト化・海外への輸出」等々私たちに眉をひそめるような事業が進行しています。

最後に、私たちのNPO法人ボネールの活動を紹介して御礼とします。

「ボネール」（フランス語でしあわせの意）は1994年に、当時まだ偏見と誤解の社会的環境のなか、精神障がい者の居場所、安心して話ができる場として、当事者、家族5／6名で始めました。2002年には、もっと障がいを理解してもらおうと、一般市民の方たちと「ボネールを支える会」を発足し、近所のお寺の境内を借りての「お祭り」や、秋には市内の高校生や音楽家による「コンサート」などを開催し、市民のみなさま

した。震災後、職員が忙しくなってしまう、利用者さんと一緒に楽しい時間を過ごすことがおろそかになった時期がありました。これではいけないと、創設時から大事にしてきた、うたうこと、おどること、あそぶことを取り戻そうと始めたのがアート事業だったのです。そういう意味では今回の地震も、大きな被害はありましたが、きっとこれをバネにして、大きなジャンプができるのではないかと思っています。

「ゆめ風基金」の支援を受け、建物の修繕を行うことができ、多夢多夢舎が大事にしている「安心して過ごすこと」「自由に作品を作ること」ができるようになりました。また、カフェ棟も修繕が終わり、お客さんを招いて、交流の機会をたっぷりと作っています。この建物が修繕できたことは、多夢多夢舎の活動の軸を取り戻すことにつながりました。

これからも「す・す・つくる・かかわる」を大事にしながら、たくさんの方のハッピーを皆様にお届けしたいと思っています。

「す・す・つくる・かかわる」

多夢多夢舎の「軸」が戻ってきました！

仙台市 多夢多夢舎中山工房
施設長 坂部 聡

多夢多夢舎中山工房は宮城県内でも珍しい、アート事業を軸に据えた就労継続支援B型事業所です。「す・す・つくる・

リレー・エッセイ 災害と障害者 第七十五回

障害ある市民の声を 社会に届けよう ―2023年キッシヤンの初夢―

とし正月の二日、こんな夢をみました。とてもリアルな感じの夢でした。

お花畑の真ん中に憲法9条の条文が書かれたプラカードが出ていました。青く高い空の上でおひさまがニコニコ笑っています。ピースマークのTシャツや思い思いの恰好をした車いすユーザーが大きな看板を先頭にゆっくり歩いていきます。看板には「憲法9条を忘れるな。78年前の戦争を忘れるな」「憲法は為政者の権力暴走を防ぐためのもの」と書かれています。

太鼓をたたいたり歌ったり踊ったりしながら楽しそうに思い思いの気持ちを表現しながらゆっくり歩いていきます。ハイビスカスのレイを巻いて手話で平和の歌をリズムよく町を歩いていきます。大きなキャンバスに絵を描いている人たちがこちらを向いてピースサインを送ってきました。

白杖をもった視覚障害者たちが盲導犬のベストにそれぞれの思い、「教育や福祉に予算をまわして」「防衛費はもういらない。武器を売るより平和の備えを進めよう」「平和でないと、私たちの仕事ができなくなる」とアピールしながら歩いていきます。

家にいる障害者たちはベッドの中でパソコンに向かって「戦争はいやだ」という原稿をSNSに投稿しています。ヘルパーの男性に代筆してもらっている身体障害の人が机にむかっています。外出できる障害者は、駅やデパートの前で若い男性ボランティアに「戦争につながる法律をつくらないで」というプラカードをもってもらいながら、初老の男性に声をかけています。高齢の女性が「戦争よりいまは地球環境のほうが大問題でしょ」と語りかけています。「日本国憲法は我らの希望」と書かれた大きなプラカードを、お爺さんやお婆さん・中年のサラリーマンたち・どこにでも居るおばさん・おじさん・ヤンキー・こどもたち……が支えています。

目が覚めて、毎月購読している新聞『うずみ

きしだのりこ
岸田典子
(キッシヤン)

小学3年のとき、地元の小学校から視覚障害支援学校に本人の意思にかかわらず転校させられる。お琴の先生になるように薦められたが、あまりにも才能がなく練習もしなかったので先生から弟子になることを断られる。健常者が学ぶ大学に入学し青春を謳歌する。腰かけ気分で行入社し、30年間も電話交換手として居座る。現在、公立高校の福祉コースで、非常勤講師として視覚障害者の介助について講義している。

火』2023年1月号を見てびっくり。
まず少し引用しますと、

「相手国のミサイル基地などを破壊する「敵基地攻撃能力」の保有を記した安全保障関連3文書の改定が12月16日、閣議決定された。歴代の政権が戦後一貫して堅持してきた専守防衛を空洞化させる安保政策の大転換だ。さらに防衛関連予算の倍増も明記されるなど、「軍拡増税」が進められようとしている。

安保政策の大転換にもかかわらず、国会で審議もせず、閣議決定で決める。びっくり、どつきり、えー戦争準備がはじまるのか？ どうしよう、恐怖・心配・怖い・泪顔、心配顔…。

ふと、原発反対運動を行う人々の姿「原発いらない電気は足りている」と町行く人たちに語り掛けるようにゆっくり歩いていく。そうや、ぐずぐず心配ばかりしてもなにも変わらない。障害ある市民として声をあげよう。自分の思いを社会のみんなに届けよう。プラカード・スピーカー、そうだベッドの中からSNSを使って投稿もできる。新聞やラジオに代筆してもらって投書欄に投稿できる。駅や人がたくさん集まるところで、それぞれの思いをプラカードや横断幕に書いて立つスタンディング行動に参加する。私は白杖を持ち一人で参加しているが「障害者はおことわり」なんて言われたことはない。国会前に車いすで「憲法9条忘れるな」「閣議決定だけで決めるな」「教育や福祉に予算を回せ」「防衛費はいらない」「税金これ以上払えない」と大声で叫ぼう。手話で平和の歌をジェスチャーしながら銀座通りや大通りを歩こう。白杖や盲導犬と「武器で平和はつくれない」と声をあげながらデモしよう。障害ある市民にとって戦争は大の苦手だが、平和を願い訴えることはできるのだ。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの
自己紹介をかねたメッセージを
お届けするシリーズ第4弾！



千葉県南房総市

NPO 法人たからばこ

理事長 武田 由美

私たちは、発達障がい児の親と支援職が中心となって、発達障がいなどの障がいを持つ子ども達が自分らしく伸びやかに生きられる地域社会を作るための活動をしています。2016年12月からは放課後等デイサービス「みんなの森」の運営も行っています。

ゆめ風基金との出会いは2019年9月の房総半島台風で被災した時のことでした。当法人の建物の屋根と窓が大きく破損して、全室水浸しの半壊状態となり、呆然としていた時に、市役所から被害の状況を聞きつけたゆめ風基金理事の宇田川さんが訪ねてきてくださったのでした。自宅もまだ停電が続いている状態の中で、仮営業場所の選定や引っ越し、保険会社や修繕工事業者とのやり取りなど気の遠くなるような作業に明け暮れる日々に光が差した瞬間でした。

その後ゆめ風基金やご紹介いただいたAAR ジャパン（難民を助ける会）からのご支援、会員さん、支援者の方からのご寄附で修繕工事を施し、被災から4か月後の1月には元の建物で事業を再開することができました。ゆめ風基金には心から感謝しております。

今度は私たちが支える側に回ればと応援団に加わらせていただきました。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

こんにちは！ 応援団から vol.4

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することになりました。それが「ゆめ風応援団」です。



熊本県天草市

NPO 法人ワークショップひなたぼっこ

理事長 山中 権太郎

私たちは、熊本県の天草市で活動を行っています。天草市は海に囲まれた島国で、主に漁業が盛んに行われています。また、有名人としては歴史で皆様も一度は耳にしたことがある天草四郎がいます。その天草市で障がいを持たれている方ひとりひとりが地域の中でたくましく豊かな生活を築けるように、皆がお互いを尊重して寄り添い実現していくことを理念として活動を行っています。具体的には就労継続支援や放課後等デイサービス、相談支援を行っています。

今年度から自団体だけでは活動に限界を感じ、地域の方にも協力してもらうことで包括的に障がいを持たれている方を支援して行きたいという想いから「ぼかぼかハウス」プロジェクトを立ち上げました。「ぼかぼかハウス」プロジェクトでは、主に地域食堂を開催しており、食事を通して地域コミュニティを作り上げたいと考えています。これにより、障がいを持たれている方と地域の方との交流の機会が増え、障がいを持たれている方の困りごとなどを地域全体の問題として知ってもらい、解決していけると思っています。

ゆめ風基金との繋がりは、2020年7月に起こった熊本県集中豪雨で、私どもが被災した際に支援していただいたことがきっかけとなります。当時、私どもの事業所は約1mの浸水の被害にあい、車両やコピー機といった電化製品、テーブルや椅子など、ありとあらゆるものが使えなくなってしまい、床も泥だらけで何から手を付けていいのか途方に暮れる状態でした。職員や利用者、ともにやる気が起きずにいましたが、様々な方からお声掛けやご支援、お手伝いなどをいただき、また頑張ろうと復旧に向けて動き出すことができました。そのような中で縁もゆかりもなかったゆめ風基金様からご支援の申し出をいただき、とても嬉しく感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これからは「ゆめ風応援団」として、同じような災害が発生した際に、情報共有や可能な限りの支援活動を行いたいと思っています。「ゆめ風応援団」の一員として、支援の輪の一端を担えるように頑張っていきたいと思います。

ゆめ風版BCP

事務局長 八幡隆司

BCPを作成しただけでは本当に災害時役立つのか検証ができません。そのためゆめ風基金ではBCP検証のため、災害を想定して職員の動きをシミュレーションする「BCPシミュレーション」を昨年10月に作成しました。「生活介護事業所」を仮のモデルとし、みんなで一緒に考えられるものをまず作り、昨年11月に25人ほどの参加者で実施してみました。その後、各事業所で実際に使いこなすために「通所事業所」や「ヘルパー派遣事業所」など部門ごとに災害時にこんなことが起きた時にどうするかという設問を10から13ほど作り、対応を考えてもらうようにしました。

避難所運営シミュレーション

ゆめ風基金では、他にも一般の避難所でどのように障害者の合理的配慮を行うのかを考える「避難所運営シミュレーション」を8年前に作成し、講演会などで実施してきました。しかしコロナがまん延する中、WEBを利用した講演ばかりになり、対面で実施することが難しくなりました。そこでWEB上でもこの「避難所運営シミュレーション」ができなにかと考え、資料を一新するとともに、WEB上でのグループリーダーを増やすため、リーダー用マニュアルを作り、今ではWEBの講演でもこの「避難所運営シミュレーション」ができるようになりました。

ゆめ風基金では障害者と一緒に防災を

学べる取り組みを色々と考えホームページに掲載しています。ここに書いたことについてはホームページの「障害者防災」コーナーをご覧ください。

災害時スターキット概要

- 1 施設の安全確認と使用
チェックする項目、使用許可の判断基準
- 2 本部の立ち上げ
役割分担の確認／備蓄物資の確認と使用、不足物資の調達について／会議の持ち方
- 3 安否確認
電話が使えるときと使えないときとに分けた対応／確認すべき内容
- 4 福祉避難所
開設手順／運営内容／閉鎖基準
- 5 各事業の継続方法
事業の中止、再開の基準

NPO 法人 ゆめ風基金

会計報告

ただいまの基金額

貸付金の残高

0円

327,853,631円

これまでの救援金・救援活動費総額

581,542,595円

総会員数

14,341人

			前回報告残高 2022 年9月現在	この3ヶ月の動き 10月から12月まで	今回報告残高 2022 年12月現在
収支計算書	収入の部	会費収入	9,501,276	4,520,031	14,021,307
		寄付金収入	10,996,805	16,916,389	27,913,194
		臨時寄付金収入	2,481,032	185,000	2,666,032
		助成金収入	445,700	200,000	645,700
		事業収入	800,724	447,770	1,248,494
		雑収入	233,170	78,469	311,639
		貸付金返済収入	0	0	0
		保証金返済収入	0	0	0
		預り金収入	1,188,786	531,872	1,720,658
		未収入金収入	0	0	0
		未払金収入	0	0	0
		合計	25,647,493	22,879,531	48,527,024
	支出の部	救援金支出	4,381,790	3,577,080	7,958,870
		救援活動支出	0	0	0
		貸付金支出	0	0	0
		基金拡大活動支出	642,560	244,355	886,915
		防災活動事業支出	421,214	434,092	855,306
		広報活動事業支出	1,429,767	469,426	1,899,193
		その他事業支出	785,560	351,110	1,136,670
		人件費支出	7,806,250	3,515,207	11,321,457
		その他事務費支出	4,973,456	1,607,982	6,581,438
		預り金支出	1,284,086	301,846	1,585,932
		未払金支出	286,720	0	286,720
		固定資産購入支出	0	0	0
		保証金支出	0	0	0
		合計	22,011,403	10,501,098	32,512,501
		差引：収支差額	3,636,090	12,378,433	16,014,523
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	313,389,984	14,463,647	327,853,631
		一般会計現金預金	2,261,088	△ 2,085,214	175,874
		[現金預金合計]	315,651,072	12,378,433	328,029,505
		障害者貸付金	0	0	0
		有形固定資産	926,162	0	926,162
		その他の資産	1,315,874	0	1,315,874
		合計	317,893,108	12,378,433	330,271,541
	負債の部	未払金	0	0	0
		預り金	142,735	230,026	372,761
		その他の負債	0	0	0
		合計	142,735	230,026	372,761
		差引：正味財産	317,750,373	12,148,407	329,898,780

脚注 1. 今回は10月から12月までの3ヶ月間の報告です。
2. 救援金は4件の支払いがありました。
3. その他は特に大きい変動はありません。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災	2016 年熊本地震	2018 年西日本豪雨	2022 年福島県沖地震
348,127,104 円	55,598,387 円	45,164,095 円	6,956,790 円

カンパをいただいた団体

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。
本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたら申し訳ありません

10/14	いこらー（岸和田市）	12/19	カトリック枚方教会（枚方市）
10/19	CIL おのみち（尾道市）、らんがく舎（横浜市）	12/21	豊中友の会（豊中市）
10/20	ポポの家（伊丹市）		ミニヨンペットショップ（川西市）、得雄寺（南松浦郡）
10/21	ルーテル作業センタームゲン（松山市）	12/22	フジテクノ（川越市）、アヒルストア（渋谷区）
10/24	ほっと はあと		いわき自立生活センター（いわき市）
10/27	CIL 立川（立川市）、常副寺（大阪市）		清心中学校・清心女子高等学校（倉敷市）
11/1	Tea for two（四街道市）	12/23	カタログハウスの学校（渋谷区）
11/2	ネット大分（大分市）		出発のなかまの会（生野区）
11/22	土っかりゆのん（札幌市）	12/26	大阪聖ヨハネ教会（大阪市）、日邦紙器（豊中市）
12/2	共に生きる街づくりセンターかがし座（春日部市）	12/27	たからばこ（南房総市）、ネットきくがわ（菊川市）
12/13	京都聖マリア教会婦人会（京都市）		草の実家族会（札幌市）、ヌヴェール愛徳修道会（伏見区）
12/15	そうそうの杜（大阪市）	12/28	北巢本保育園（門真市）
12/16	でんでん虫の会（加東市）	12/29	J-pal（大阪市）、なかのきみよし法律事務所（大野城市）
12/17	日本聖公会大阪教区婦人会（大阪市）	12/31	坪井令夫商店（名古屋市）

事務局のうごき

2022 年 10 月から 12 月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜日	事務局会議	毎週金曜日	新 HP 打合せ
10/3	むくのき学園人権学習（長崎・阿部）、step えどがわ取材	11/10	神奈川大学学生さん聞き取り調査
10/5	BCP（事業継続計画）研究会	11/17	障害者大阪連絡会訪談
10/11	JWORD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）打合せ	11/17・18	大船渡中学生プロジェクト
10/12	ボジ祭（被災障害者⇄関西ポジティブ生活文化交流祭）会議	11/18	101 号編集会議、医療福祉防災ネットワーク講演参加
	大日本印刷講演打合せ	11/20	岡山講演
10/13	OSN（大阪災害ネットワーク）世話役会	11/22	BCP 研究会ボジ祭事前イベント
10/17	静岡障害者協会訪問	11/23	ボジ祭
10/24	大阪災害支援連携会議、ゆめごよみ 101 号編集会議	11/24	大日本印刷労組講演
10/25	あまのくらし部会（尼崎）講演	12/1	中学生プロジェクト（摂津二中）
10/26	BCP 研究会	12/3・4	箕面人権イベント
10/27	門真講演	12/8	中学生プロジェクト
10/28	ボジ祭出店者説明会	12/9・27	OSN 世話役会
11/1	大阪市従業員労働組合打ち合わせ	12/14・15	通信 101 号発送
11/7	OSN 世話役会	12/19	102 号編集会議、理事会
11/9	生野区講演打合せ、中プロ（大船渡）打合せ	12/20	OSN 要援護者部会、西区講演
	101 号編集会議	12/23	OSN 打合せ

そよ風、つむじ風、六甲おろし

各地からの風だより

2022.10 - 2022.12

▼今こそ「ゆめ」を見る「風」を作る大切さを感じます(奈良市) ▼自分の生活がでないのでもっとしんどいです(東大阪市) ▼90才になります。もう少しの間応援できまうように前向きに気をつけます(横浜市) ▼ゆめ風に初めての寄付です。よろしく願います(小田郡) ▼「ゆめ風だより」は現場の息遣いが感じられます。楽しみにしています(川崎市) ▼たくさんの情熱と愛がゆめ風には詰め込まれていると感じます(府中市) ▼ガン手術より生還しました。これからも少額ですが続けます。▼生活はどんどん窮屈になっていきますが、上は誰も助けてくれません。お互いに支えあうしかない時代。悲しい(横浜市) ▼100号おめでとーございます！3Pのお届けした救済金のページ読んで、活動がすごいなあと思いました(豊川市) ▼いつも、おたよりをありがとうございます。家族と一緒に読ませていただいています。みんな、暖かくお正月を迎えられますように(茨木市) ▼作業所に通うようになって3年を迎えました。働き続けてこられたことに感謝しつつ、わずかですがお送りします(大阪市) ▼永さんの大ファンだった母が8月に亡くなりました。母からの最期の気持ちとして寄付させていただきます(中野区) ▼「東北」へ(他数名) ▼100号すごいですね。永さんのラジオで「ゆめ風に」仲間に入れていただ

きました。ご縁を大切に、皆様と共にすごしてゆきます。ありがとーございます(所沢市) ▼ギャラリー花の四季(きせつ)で展示販売会。売り上げ一部を寄付させて下さい(丹波市) ▼一年過ぎるのが年をとると早いと感じます。来年には一月で81才になります。少しですが送ります。お元気で！(小金井市) ▼いつもさまざまなことを教えてもらっています。山田太一さんのメッセージ、心に残りました(和賀郡) ▼いつになったら本当の意味での平和がくるのだと心を痛めています。ニュースで流れるむこうにはどれだけの犠牲があるのか(石岡市) ▼「どこか」を手繰り寄せるのエッセイが心にしみ、ほんの少しだけですが、手繰り寄せるお手伝いになれば(岐阜市) ▼ゆめ・ゆめ・ゆめ ゆめを持ちたい暮らしがゆめかな(静岡市) ▼今年のくりは豊作で笠間のくりおいしいよ！(笠間市) ▼ウクライナ開戦の2日前、カフェの窓越しにコピーと読書を楽しむ女性の姿。ロシアの侵攻を伝えるニュースとのギャップに、日常と非日常は紙一重と感じました(さいたま市) ▼感謝と笑顔で一日一日を、人にも物にも自分にもいいねに誠実に向き合ってゆきたいと思っています(名古屋) ▼地域では分離教育に対し、心を痛めています。尾上さんのエッセイを伝えます(吉野郡) ▼風、楽しみに拝読。87才(三浦市)

ゆめ風ブログ (<https://yumekazek.com/blog/>) にも掲載しています

編集後記 皆様書いてくださるコメントに私たち事務局員を励まして下さる言葉が多くて、涙が出そうになります。いつもありがとうございます。今のところ事務局員はなんとか元気に業務をこなしています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。(長崎)

ゆめ風ネットワーク連絡先 [faxは06-6321-5662迄]

さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 三条 0256-34-2448
JDS(東京) 03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 埼玉 048-738-4593
上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 0529-10-1001
岐阜 058-388-1864 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 059-273-6930 滋賀 077-543-2844
JCL(京都) 075-671-8484 奈良 0745-42-2919 和歌山 073-472-6731 伊丹 072-779-1771 ひょうご 078-642-0142
はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533
まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365 徳島 088-679-8225 岡山 086-697-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9550
やまぐち 0833-76-0550 福岡 094-962-6003 大分 097-597-5315 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 諫早 0957-28-3800
さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329 みやざき 0985-31-4800 かがしま 0994-63-8839 沖縄 0988-90-4890